

## 令和3年度 第3回大山崎町社会教育委員会議の報告

- I 日 時 : 令和3年12月24日(金) 午後2時~同3時  
II 場 所 : 大山崎町役場3階 中会議室  
III 出席者 : 16名  
○ 出席委員(6名)  
○ 事務局(10名)  
教育長・教育次長・学校教育課長・生涯学習課長・歴史資料館長・文化芸術係総括主幹・公民館長・体育館長・生涯学習スポーツ振興係員2名  
IV 会議名 : 令和3年度第3回大山崎町社会教育委員会議  
V 内 容 : 以下のとおり

### 【要点】

会議は円滑に執行された。  
傍聴希望者なし。

- |           |     |
|-----------|-----|
| 1 開 会     | 事務局 |
| 2 教育長あいさつ | 教育長 |
| 3 委員長あいさつ | 委員長 |

※ 当日配付資料の確認(別紙参照)

※ 大山崎町社会教育委員会議運営規則により本会議の成立を宣言 事務局

### 4 議 題

※ これ以降の進行は委員長が担当

(1) 令和3年度社会教育委員会議関係事業報告について  
令和3年度町社会教育委員に関係する内容と実績を報告

事務局

<社会教育実践交流フォーラム・令和3年度京都府社会教育研究大会について>  
委員

参加報告する。舞鶴の城北中学校の実践報告であった。生徒の数は441名で、大山崎中学校よりも少ない。この中学校が、10年前は少し荒れていた。学校と地域、もちろんPTAも含めて何とかならないかということで立ち上がり、今、良くなっているということであった。

こういった話はこれまでも聞かせていただいたが、例えば、あいさつをしっかりとやろうとか、色んな学校行事に参加しようとか、おせち料理とか、お茶とかお花とか、いろんなことをやりながら学校と地域が一体になってという話は色々と聞いてきたが、今回、興味深かったのは、「夢プロジェクト」という名前で「フジバカマ」という花を栽培して、それを押し花や匂い袋にするということであった。それから、フジバカマに来る蝶「アサギマダラ」を呼び込む。そういうプロジェクトで、今までにない取り組みであった。学校と地域だけでなく、地域全体、行政も含め、皆で一緒になってやったという成功例であった。

#### 委員

講演のことだが、後ろの方の席で、音声というかマイク設備が全くダメで、聞こえなかった。最後、閉会の時に「聞こえないから私は帰る」と言って立ち上がる人もいた。周囲の方の話を伺うと、前の方の席では聞こえたようである。中には後ろの方の席でも相槌を打つなど、共通する話題を持つ方には理解されていたようであるが、私は、何をおっしゃっているのかわからなかったので残念であった。

#### 委員

二つの講演を聞かせていただいた。私が二つを聞いて心に残ったことは、どちらも地域おこしのために「コーディネーター」というものを置いているということである。多層構造のコーディネーターということで、段階的にコーディネーターを作り、各中学校区に20人前後が配置され、地域と学校の協働活動を支える人的基盤となっているということである。大山崎町内であれば、各3校に配属されているということになる。地域づくり・地域おこしというのは、将来、小学校や中学校、若者がベースとなっていくように思う。今からコーディネーターというシステムを慣らしておいて、子どもたちに受け継ぐような形で練習していくと、地域おこしの基盤になるのではないか。そういったことをおっしゃっていたように思う。

天理大学の副学長がおっしゃっておられたのは、子どもたちに話を聞くということもポイントで、グループワークをさせて、子どもたちや教師の気持ちをワークすることで聞き込むことができる。それから、子どもたちにやりたいことについてアンケートをとり、活動につなげているということであった。それから、「いいかげん」ということも大事で、気張ってやるのではなく、若い人材を育成するためにも「いいかげん」という気持ちがあってもいいのではないかとか、集まらずにできるイベントをやるには、どうしていったらよいかということもおっしゃっておられた。今のこのコロナの時代は、対面で話すことが理想ではあるが、オンラインを使って話すことにも、会場で話をすることにも慣れ、多種多様なやり方を取り入れる「ハイブリッド型」に少しずつ慣れていくことの重要性についておっしゃっておられた。

想いを共有し合う所を出発点にしてスタートするというのがポイントということで、つないでいく方を養成するには、一人に任せるのではなく、各学校にコーデ

イナーターを置いて養成し、話を聞いていくのが良いのではないか。大山崎でも、コーディネーターを立ち上げて会議で知恵を絞り合っていくのが地域おこしのポイントの一つではないかと思った。

#### 委員

(現物を取り出して)これが、フジバカマを乾燥させて入れたものである。お土産をいただくことは滅多にないことだが、乾燥させて匂い袋にしたものを皆に配られた。

#### 委員

この実践発表は、本来であれば近畿大会の分科会で発表の予定であった。近畿大会が新型コロナの影響でオンライン開催となり、発表する機会を無くしたため、京都府大会での発表となった。

城北中学校の様子は、詳しくはおっしゃられなかったが、報告の中身を見ていると相当荒れていたようである。授業が行われていても他の教員が廊下に待機する状況は、さぞ大変だっただろうと思いながら実践発表を聞いた。

秋の七草のひとつであるフジバカマは、皆さんご存じかと思う。アサギマダラという蝶については、ご存じか。渡りをする蝶として有名で、私の知り合いの方もマーキングをしておられる。今年は伊吹山へ行く、今年は長野県の〇〇へ行くと言っては、1か月ほど留まり、アサギマダラを捕まえては、後ろの決められた位置にマーキングする。ナンバーや誰が捕まえたかを油性のペンで書き、離す。アサギマダラは春に日本へ渡り、そこで繁殖して、その幼蝶がまた渡っていく。ずっと日本列島を渡って、沖縄を通り、台湾を通り、南の方へ移動していく。その移動の行程を調べるグループがある。

青井校区であったか。昔小学校があったところでフジバカマを植えて、アサギマダラを捕まえて、子どもたちと一緒にマーキングをして、離してやるという。そうする中で、中学生が「何やってんねん」とやってきたので、「ちょっと植えてくれや」とフジバカマを植えるのを手伝ってもらったりして、徐々に子どもたちとのつながりを作りながら、長い道のりだったようだが、落ち着いた学校にすることができた。という事で、中学3年生が匂い袋を作る作業もしている。そうした発表であった。

実践発表は時間が少なかったため、アサギマダラを知らない人にとっては何のことかわかりにくかった方もいるのではないかと思いながら聞いていた。委員からあったように、後ろの方は聞き取りにくかったようだが、私は役員のため前方に座っていたため、よく聞けていた。最後の方は後ろがざわざわして、閉会挨拶は、前に座っていても聞き取れない状態だったので、少々残念であった。

天理大学の副学長の講演は、奈良市の様子をお話された。コーディネーターを多層構造にするとして、総合コーディネーターとか代表コーディネーター、地域コーディネーター、これを各校に1名ではなく、複数名配置すると。そのコーディネーターの人材養成と発掘を行っており、現在400人程のコーディネーターがいらっしゃるとい

うことであった。学校や防災、コロナ、そうした中での色々な取り組みについて紹介されていた。

◎ 各委員が承認

(2) 令和3年度生涯学習課関係事業報告について

「生涯学習・スポーツ振興係」、「町体育館」、「文化芸術係」、「中央公民館」、「歴史資料館」、の順に実績を報告

事務局

※ 質疑応答

<脇山遺跡における遺跡分布調査について>

委員

10ページの、10月11日、脇山遺跡とあるが、円明寺のどのあたりのことか？住居と近いようである。

事務局

詳細は申し上げられないが、字円明寺で、現在、藪地に店舗を建てる計画がある。このあたり一帯には、縄文時代の遺跡がかなり出ている。府営住宅を建てる以前からこのあたりはかなり平場で、旧地形が良好に残っている。東側一帯はかなり掘り返されていることもあって、府営住宅のあたりとはかなり地形条件が異なるのでこの遺跡の分布調査を実施した。その後の開発については、まったく未定であり、それによって調査が必要になるかどうかはまだわからない。開発の在り方というより、その藪地一帯での遺跡のあり方について確認調査を実施した。

委員

現在、ひどい放置竹林となっているところで、おそらくそこかと思う。さらに東に新しく共同住宅が建ったが、そこも関係しているのか。

事務局

おっしゃられた場所については、4か所ほど調査を実施したが全く遺物は出なかった。府営住宅にある縄文時代の遺跡は、縄文時代に人が住んでいたことは事実だが、共同住宅が建っている東側までのところについては、影響を与えていない。そういった成果があり、その間がどうなのかを調べている。藪地一帯は複数の方が所有しており、私が申し上げているのは、特定の所有者の場所を指しているわけではなく、遺跡全体の把握に努めたという趣旨である。開発計画については、今後もどうなるかわからないため「概ね、あのあたりの藪一帯」という認識でご理解いただきたい。

委員

11 ページの上の写真は何が出てきているところか。

事務局

場所は、「なかよしクラブ」の旧施設があった西側で、グラウンドゴルフのグラウンドになっており、長寿苑で管理されている。幅1m、深さ1,5m程の筋彫りで試掘というものをして、堆積状況を確認し、層の違いを白い線で引いたりしている。それで、遺跡の有無を確認したという実施内容写真である。

委員

おもてなしウィークについてはどうであったか。

委員

おもてなしウィークには、お店で参加させていただいている。同じ週に、独自のイベントも開催しており、毎年、春と秋の年2回開催している。その後に、3日間参加させていただいた。独自のイベントも含め、たくさんの方が大山崎町をめぐってお買い物やワークショップ的なことをされていたので、そういったところに足を運ばれたのではないかと思う。実行委員の方が仕切ってくださいる中で、お店で参加のみさせていただいたが、町内外の方に楽しく過ごしていただいたのではないかと思う。コロナでの鬱積を、いろんなお店をめぐることによって発散できたのではないか。また来年も開催するのであれば、参加させてもらいたい。

◎ 各委員が承認

※ これ以降の進行は事務局が担当

5 その他（連絡事項）

事務局

○ 大山崎町立岩崎運動広場について

6 閉会あいさつ

副委員長